

A light blue map of Kagami City is positioned in the upper center of the page. The text '香取市 総合計画' is overlaid on the map in a dark blue font.

香取市
総合計画

はじめに



総合計画の概要

1 計画策定の趣旨

香取市は、平成18年3月27日に旧佐原市、小見川町、山田町及び栗源町の1市3町が合併して誕生しました。

旧市町では、それぞれ総合的な計画を策定し、基本理念や将来像を実現するための総合施策を示し、各般にわたる施策を住民とともに推進した結果、生活基盤、産業基盤などの充実とともに、それぞれの分野において着実な発展が図られてきました。

しかしながら、21世紀を迎えた今日、少子高齢化の急速な進行、情報通信技術のめざましい発達、環境問題の顕在化、防災・防犯への意識の高まりなど、私たちを取り巻く情勢は大きく変化してきており、地方分権の進展と相まって、中長期的な視野に立った計画的かつ安定的な行財政運営が求められています。

このような時代・環境の変化や市民ニーズに的確に対応し、香取市の礎を築き新たな発展を遂げるとともに、地域の個性や資源を活かしながら、早期に一体性の醸成を図っていくため、新市建設計画の理念を継承しつつ、新たな視点と発想に立ち、市民の参画を得ながら、まちづくりの指針となる計画を策定するものです。

2 計画の役割

総合計画は、香取市におけるまちづくりの最上位に位置づけられる計画であり、その性格から、次のような役割を持っています。

- ①「香取市のまちづくりの中核となる計画」として
- ②「市民に対する市の運営指針」として
- ③「国や県などに対する市が目指す方向性の提示」として

3 構成と期間

総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成されます。また、「基本計画」を実現するための具体的な手段として、毎年「実施計画」を策定します。

「基本構想」とは…

- ◎まちづくりの基本的理念と市の将来像を示すとともに、それを実現するために必要な施策の大綱を明らかにするものです。
- ◎計画期間は、長期的な視野に立ったまちづくりを進めていく必要があることから、10年間とします。

「基本計画」とは…

- ◎基本構想に掲げる将来像を達成するため、施策の大綱に従い施策の目的や方針を明らかにするものです。
- ◎計画期間は、中期的な観点から基本構想の実現を図るため、前期5か年、後期5か年とします。

「実施計画」とは…

- ◎基本計画に示された施策の目的を達成するために必要な主要事業の具体的な内容を明らかにするものです。
- ◎単年度ごとの行動計画として作成します。



香取市の概況

1 地 勢

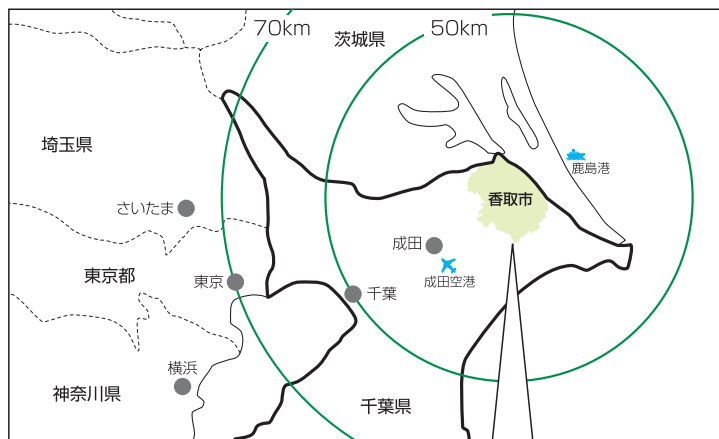
香取市は、東京都心から直線で約70km、県都千葉市から約50kmの千葉県北東部にあり、成田空港と鹿島臨海工業地帯の中間に位置しています。東部は東庄町、西部は神崎町、成田市、南部は旭市、匝瑳市、多古町、北部は茨城県に接しています。

その北部地域には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、その流域には水田地帯が広がり、南部地域は山林と畑を中心とした平坦地が北総台地の一角を占めています。

また、水郷地域の象徴として、利根川、常陸利根川、横利根川、黒部川、小野川など15の一級河川、主要な湖沼には与田浦、さらに、水辺空間である自然公園として水郷筑波国立公園、県立大利根自然公園があります。

市域は東西約21.2km、南北約22.7kmにも及び、面積は262.31km²で、県内第4位の面積を有しています。

位置図





2 沿革

①旧1市3町の歩み

佐原区(旧佐原市)

昭和26年3月15日、佐原町、香取町、香西村、東大戸村が合併、市制が施行され、さらに昭和30年2月11日に新島村、津宮村、大倉村、瑞穂村を編入し、旧佐原市が誕生しました。

小見川区(旧小見川町)

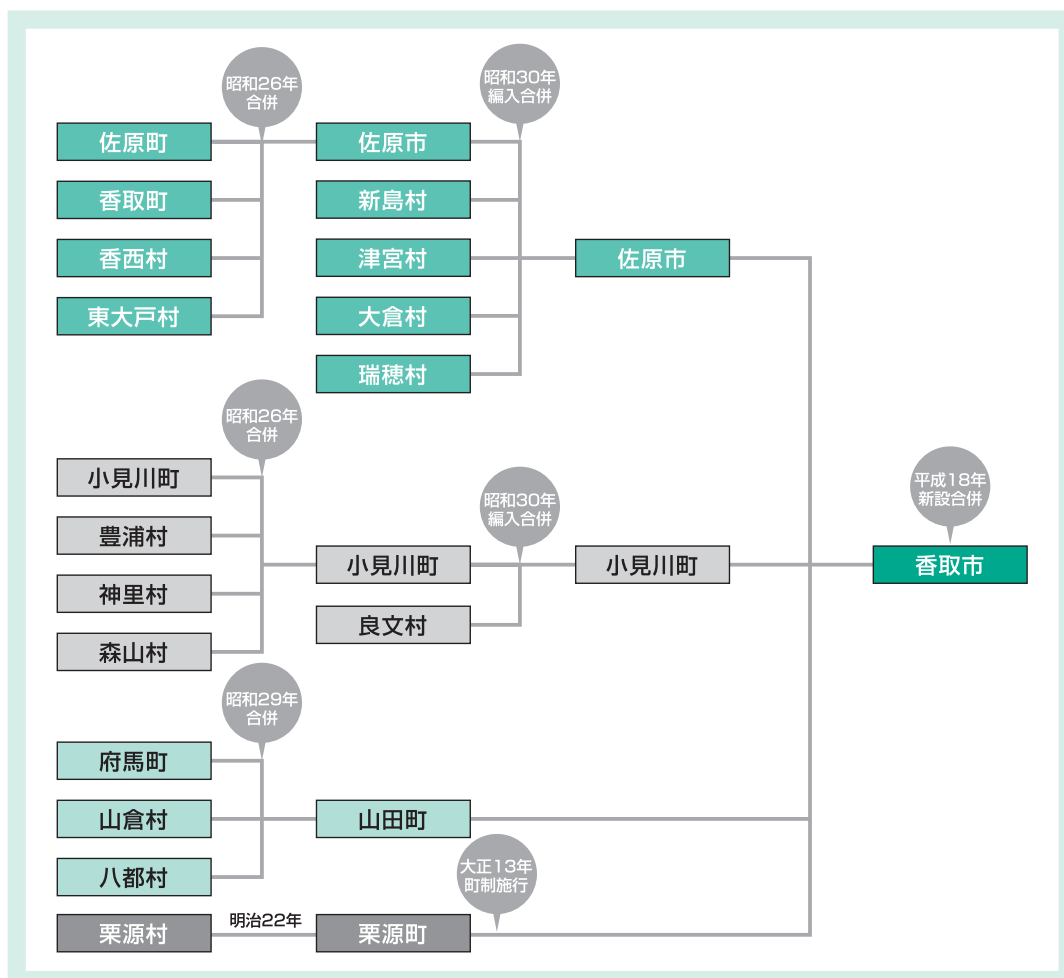
昭和26年4月1日、小見川町、豊浦村、神里村、森山村が合併し、さらに昭和30年2月11日良文村を編入し、旧小見川町が誕生しました。

山田区(旧山田町)

昭和29年8月1日に府馬町、山倉村、八都村が合併し、旧山田町が誕生しました。

栗源区(旧栗源町)

明治22年に栗源村となり、その後、大正13年4月10日に町制施行により、旧栗源町が誕生しました。



②合併協議の経緯

香取市の合併協議は、平成16年5月に、旧佐原市、旧山田町、旧栗源町の枠組みで香取地域合併協議会（法定）が発足し、その後、平成16年7月に旧小見川町を加え、今日の香取市の枠組みとなりました。

合併協議は、平成16年5月から平成18年2月まで17回開催され、その中で、合併にかかるさまざまな協定項目の調整を行い、平成16年10月には新市の名称が「香取市」に決定しました。

平成17年3月には、合併協定調印、旧市町の各臨時議会での議決後、千葉県知事に合併申請、同4月県より合併決定書交付、同5月総務大臣告示の後、平成18年3月27日に合併し、新生香取市が誕生しました。

合併協議の足取り年表

H16. 5.20	1市2町（佐原市、山田町、栗源町）の枠組みで香取地域合併協議会が発足
5.24	第1回香取地域合併協議会を開催
6.23	協議会ホームページを公開
6.23	小見川町の参加申し入れを承認
7.9	1市3町の臨時議会において、小見川町の香取地域合併協議会の加入を可決
7.28	香取地域合併協議会の構成市町（1市3町）が合併重点支援地域に指定
10.26	新市の名称が「香取市」に決定
11.22	合併の期日が平成18年3月27日に決定
H17. 3.22	合併協定調印式を開催
3.25	1市3町の臨時議会において合併申請に関する議案が可決
3.30	千葉県知事に佐原市、山田町、栗源町及び小見川町の廃置分合（合併）申請書を提出
4.6	臨時県議会において、佐原市、山田町、栗源町及び小見川町の廃置分合（合併）申請が議決
4.12	千葉県知事より1市3町の首長に廃置分合（合併）決定書が交付
5.13	市町の廃置分合について、総務大臣による告示
H18. 2.15	第17回合併協議会（最終回）を開催
3.27	旧1市3町の廃置分合（合併）により「香取市」が誕生

3 産業構造

香取市の産業別就業者数をみると、第1次産業及び第2次産業は減少傾向にありますが、このうち第1次産業については減少幅が縮小しています。一方、第3次産業はほぼ横ばいで推移し、就業者全体に占める割合は増えています。

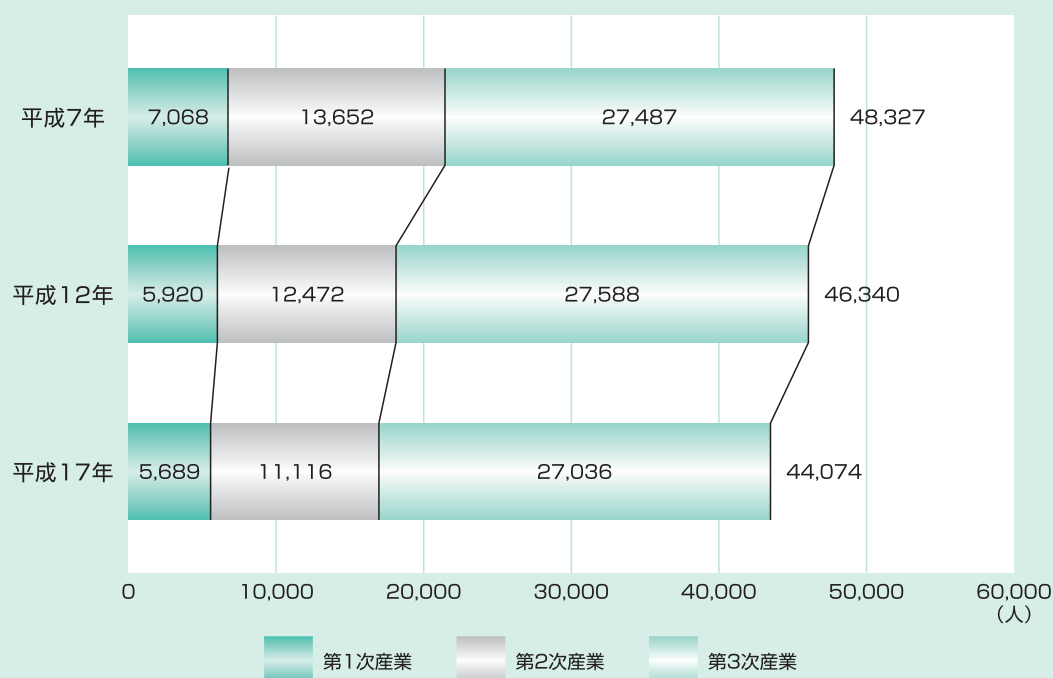
農業は、農家数に減少傾向はあるものの、農家一戸あたりの生産農業所得は全国平均の約2倍あり、首都圏の食料生産基地として重要な役割を果たし、この地域の基幹産業となっています。主な産出物は、水稻、野菜、サツマイモ、畜産などです。

工業は、大規模なものは小見川区にある小見川第一工業団地などを中心に立地し、規模の小さな事業所は各地区に散在しており、1事業所あたりの製造品出荷額は増加していますが、事業所数は漸減傾向にあります。

商業は、佐原駅周辺、小見川駅周辺の市街地を中心に商業拠点が形成されています。年々商圈が縮小し、空き店舗も増えてきていますが、観光などとの組み合わせにより、再びにぎわいを取り戻す取組みが進められています。

観光面では、歴史的町並み（重要伝統的建造物群保存地区）、伊能忠敬記念館、香取神宮、水郷、佐原の大祭（山車祭り）、城山公園桜つつじ祭り、水郷おみがわ花火大会、府馬の大クス（国指定天然記念物）、栗源のふるさととも祭りなど、多種多様な観光資源を数多く有し、これらを活かした観光振興が進められています。

産業分類別就業者数の変化



※就業者総数は、産業別就業者の合計に分類不明の人数を加えたものです。

資料：総務省「国勢調査」

4 各区(旧1市3町)別の特徴

◇佐原区(旧佐原市)

佐原区は、香取市域の北西部に位置し、北部は茨城県と隣接しています。区のほぼ中央部を利根川が東流して市域を南北に二分し、利根川の北側は食料生産基地としての機能をもつ水田地帯と豊かな水辺環境の「水郷」が広がり、利根川の南側は、利根川沿いを除き、山林や畑を中心とした北総台地の一角を形成しています。

江戸時代に銚子と江戸をつなぐ利根川舟運の発達により、物流の拠点・河港商業都市として繁栄し、歴史的な町並みや水郷の自然景観が残され、また、県内有数の観光客が来訪する香取神宮を有しています。

◇小見川区(旧小見川町)

小見川区は、市域の北東部に位置し、北部は茨城県と隣接しています。利根川下流域に位置するため、江戸時代より、利根川舟運の中継地としてにぎわい、今でも城下町としての風情が漂うなど、水郷情緒にあふれています。区内を流れる黒部川は近年、水上スポーツのメッカとなり、毎年夏にはボートやカヌーなどの大会・イベントが多く開催されています。また、夏の風物詩として、水郷おみがわ花火大会が有名です。

利根川や黒部川を中心に水との深い関わりの中で発展してきた、豊かな自然が息づく地域です。

◇山田区(旧山田町)

山田区は、市域の南東部に位置します。区の東部から北部にかけて、利根川支流の黒部川が南から北へと流れ、その流域には広大な水田地帯が開けています。区の北西部は北総台地の一翼を担う畑作台地が広がり、小丘陵地の間には樹枝状に入り組んだ特徴的な谷津田が散在しています。

肥沃な土地を活かした優良農地が総面積の半分以上を占める農業地域であり、早場米や露地野菜の生産のほか畜産も盛んで、近年では農家の集団化・企業化により高い生産性を誇っています。

◇栗源区(旧栗源町)

栗源区は、市域の南西部に位置します。地形は、小さな起伏が続く台地状で、高萩、助沢地区より源を発する栗山川は、利根川から流れる両総用水路に浅黄地区で合流し、栗源区の中心部を南下しています。

栗山川流域には水田地帯が広がり、畑作台地には畑や山林が広がり、ぶどうや梨、いちごなどの果樹園も多いほか、畜産や酪農も盛んであり、また、地元農産物を販売する栗源紅小町の郷(道の駅くりもと)やクラインガルテン栗源(滞在型市民農園)など、都市住民との交流活動が行われている、緑豊かな農業地域です。



まちづくりを進めていくうえでは、影響を受ける可能性が高い外部環境の変化を把握しておく必要があります。社会的潮流の主なものを次に掲げます。

I 人口の減少・少子高齢化の進行

日本の人口は平成16年をピークに減少に転じました。「人」は経済活動の源であり、その減少は需要と供給、両方の面から経済活力の減退につながると考えられます。また、人口全体が減少しているにもかかわらず65歳以上の老年人口は増加を続けており、逆に出生率の低下を背景に子どもの数は減少し、人口の構成上で少子高齢化が急速に進行しています。

人口減少、少子高齢化といった流れは、生産年齢人口の減少による税収の減少、高齢者の増加による扶助費の増大など、自治体の財政面に大きな影響をもたらします。各自治体にはこのような動向を十分に踏まえた、計画的な行政運営が求められています。

II 安全・安心志向の高まり

子どもや高齢者などを狙った凶悪犯罪や、情報の高度化・複雑化に伴い発生するインターネットやクレジットカードに絡む犯罪の増加、また、地震や大雨などの自然災害の多発化などにより、「安全・安心」についての関心が、これまでになく高まっています。内閣府の「社会意識に関する世論調査」でも、「日本で悪くなっている分野」として「治安」という回答が最も多くなっています。

行政は、このような住民の不安を正面から受け止め、誰もが安心して暮らせるまちづくりに、地域住民と一体となって取り組んでいくことが必要です。

III 環境志向の高まり

地球規模で環境問題が深刻化するなかで、限りある資源の循環による、環境に負荷が少ない社会構造、生活スタイルへの変化が求められています。一般市民の間でも環境に対する関心は高まっており、自然保護活動の拡大から、廃棄物・リサイクル対策の推進、エコバッグ運動など、環境のことを考えた取組みは生活のすみずみまで浸透してきています。

自然との調和を図り、「資源を循環させる」という意識のもとで、環境にやさしいまちづくりを進めていくことが重要です。

IV 高度情報化の進展

情報化の進展は、いつでもどこでも自由に情報を受発信できる利便性の高い環境を生み出しました。このような変化により、人々の生活スタイルは大きく変化し、また、社会経済活動もさまざまな面で影響を受けています。これから立地を探す企業にとっては、情報を自由に扱えることができる環境の整備は、道路などの従来の社会基盤整備と並んで必要条件になっています。

市民生活及び産業を取り巻く環境の変化に対応した施策を推進し、そのメリットが十分に享受できる社会を構築していく方向性が求められています。

V 市町村合併の進展と地方分権への移行

平成の大合併により、香取市も含め多くの合併自治体が誕生し、県内市町村の数は平成18年3月末には56まで減少しました。すでに県による新たな「市町村合併推進構想」も示されており、今後も合併の動きが進展していくことが予想されます。

また、国から地方への権限委譲がさらに進み、今後自治体には政策面、財政面で厳しい行政運営が求められ、これまで以上に「自立」の意識を高めていく姿勢が必要になります。

VI 市民による地域活動の活発化・多様化

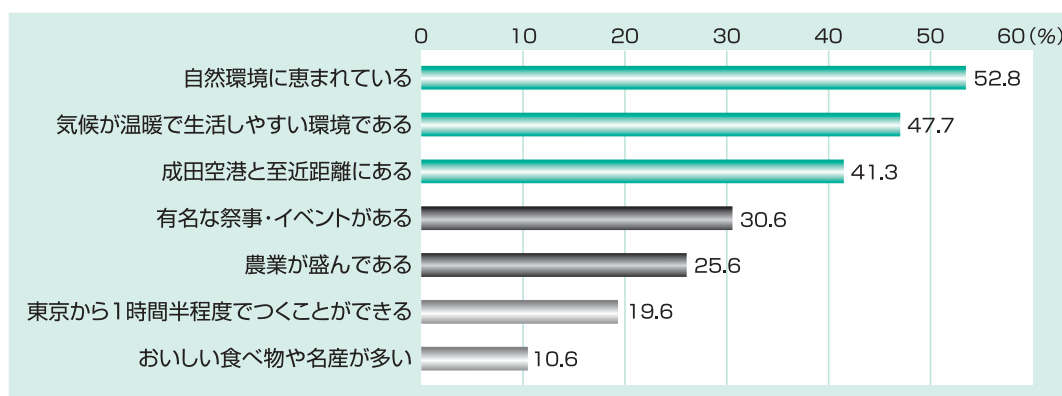
人々が心の豊かさを求めるようになるなかで、自らのまちを自らの手で住みやすいまちに変えていこうとする意識の高まりから、さまざまな分野において市民による地域活動が全国各地で活発になってきています。その一方で自治体の財政状況は厳しさを増し、行政には昔のようにまちづくりのすべてを手掛けていく余裕はなくなってきています。

これからは、市民と行政が連携・協働して魅力あるまちをつくりあげていく体制の整備が求められています。

1 香取市の強み

香取市の魅力について、「自然環境に恵まれている」「気候が温暖で生活しやすい環境である」「成田空港と至近距離にある」などの声が多くあげられました。はじめの2つの項目は「自然が豊か」という香取市の持つ特徴に集約できます。「成田空港に至近」は、鹿島港に近接していることも含め、立地的な環境に恵まれていることと整理できます。また、市の特徴である「観光」に関連する「有名な祭り・イベントがある」や、「農業が盛んである」も香取市の強みだと考えられます。

「香取市の魅力をよその人に紹介するとしたら？」（主な項目のみ）



資料：市民意識調査結果

その他、市民意識調査の自由意見や市民インタビューのなかでは、「人と人との結びつきが強い」「地域ごとに特徴がある」「面積が広い」などといった点も香取市の強みとして多くあげられました。

これらのことから、香取市の強みの主なものは次の7点に整理できます。ただし、「強み」は別の角度から見ると「弱み」になる可能性もはらんでおり、「強み」をまちづくりに活かしていく際には、このようなことも考慮する必要があります。

香取市の「強み」とそれが「弱み」になる可能性

香取市の強み	「強み」が「弱み」になる可能性
①自然が豊かで、気候が温暖である ▶	必要な開発が阻害される
②成田空港、鹿島港に近接している ▶	大きな核の挟間に埋もれて、通過点になる
③観光資源に恵まれ、観光客が多い ▶	来訪者に悪い印象を与えると、市の悪いイメージが広がる
④基幹産業である農業が盛んである ▶	産業としての農業が衰退すると、市の産業全体が衰退する
⑤地域の人と人との結びつきが強い ▶	市全体の一体感が阻害される
⑥地域（区）ごとに特徴を持っている ▶	市全体の一体感が阻害される
⑦広大な面積を有する ▶	市民と行政、市民同士のコミュニケーションがとりづらい

2 香取市の課題

市民意識調査、まちづくりワークショップ、まちづくり市民インタビューなど、基礎調査で行ったさまざまな取り組みでは、香取市の課題として多くの項目が指摘されました。そのなかで主なものを分野別に整理すると次のようになります。これからのまちづくりにおいては、これらの課題の解決に向けた施策を展開していく必要があります。

香取市の課題（分野別・各種基礎調査を整理したもの）

		主 な 課 題
産業・経済分野	農業振興	・事業者の高齢化と後継者の不足 ・生産基盤が弱い ・耕作放棄地（荒地）の増加 ・特産品、ブランド品の不足 ・流通経路の未整備 ・農家の危機意識の欠如
	商業振興	・事業者の高齢化と後継者の不足 ・消費者の市外への流出 ・大型店の閉店。空き店舗が多い ・農業事業者、観光事業者との連携不足 ・事業経営者の意識が低い ・事業者にとまどまりがない ・事業者間で情報共有化ができていない
	工業振興	・大企業がない ・立地特性が活かされていない
	観光振興	・宿泊施設、大型飲食店、駐車場が少ない ・PRIに工夫が必要 ・受入体制が不十分（標識、看板、ルート整備など） ・観光資源の掘り起こしが不十分 ・観光資源のネットワークが未整備
	雇用対策	・雇用の場が少ない ・進出企業を迎える姿勢が足りない
生活・環境分野	環境対策	・河川の水質の汚染 ・市民の環境に対する意識の乏しさ
	廃棄物対策	・ごみの収集処理体制の一元化（統一） ・産業廃棄物の不法投棄が多い
	交通安全・防犯	・防犯対策の未整備 ・防犯パトロール活動が不十分 ・市民の防犯意識の不足
	防災・消防・救急	・防災教育の不足 ・自主防災組織が不十分 ・非常備消防（消防団）体制が不十分 ・災害弱者対策が必要



主 な 課 題		
健康・福祉分野	高齢者福祉	・大規模福祉施設の整備が不十分 ・在宅介護サービス体制が十分でない ・介護予防活動の取組みが必要
	子育て支援	・保育サービスが未整備（幼稚園、保育園の整備など） ・子育て中の母親への支援の不足
	障害者福祉	・障害者対策が不十分（自立支援法～本人1割負担への対応など）
	地域福祉	・バリアフリー対策の充実が必要
	健康づくり・医療	・医療機関が不十分 ・医師の不足。産科、婦人科がない ・健康づくりへの取組みが不十分
教育・文化分野	学校教育	・学校教育の充実が必要 ・学校施設の耐震化が必要 ・地域と学校の連携が不十分
	青少年育成	・若者が周囲と関わりを持とうとしない（地域との縦のつながり） ・不登校児などへの支援が十分でない
都市基盤分野	市街地整備	・駅周辺市街地の衰退
	道路整備	・近隣への動線となる主要幹線道路の整備が必要 ・身近な生活道路の整備と安全対策が必要（狭い道路が多い） ・交通渋滞の発生（小見川大橋）
	公共交通	・JRの運行本数が少ない ・バスの利便性が良くない
	下水道整備	・公共下水道の整備が十分でない
都市経営分野	協働、広報・広聴	・広聴機会が少ない ・市の情報が市民に伝わってこない ・面積が広がり、市民と行政のつながりが弱まっている ・公共施設等里親制度の活用が不十分
	コミュニティ活動	・問題に対して無関心な人が多い ・先見性のある地域リーダーがいない
	行政改革・サービス	・職員の意識の停滞、行政運営の非効率さ ・行政事業の民間委託が不十分
	財 政	・負債が多い。安定した自主財源が乏しい ・税の徴収体制の見直しが必要
その他	・人口の減少（少子化、若者の転出） ・合併後のまとまりがない ・市民が他の区のことを知らない ・排他的な考えが強い市民が多い ・インターネット環境が悪い ・まちづくりの方向性が不明瞭 ・行政のPDCAサイクルの未整備（Plan—Do—Check—Actionの流れ） ・地域間の格差 ・伝統を守ろうとする意識が強すぎる	

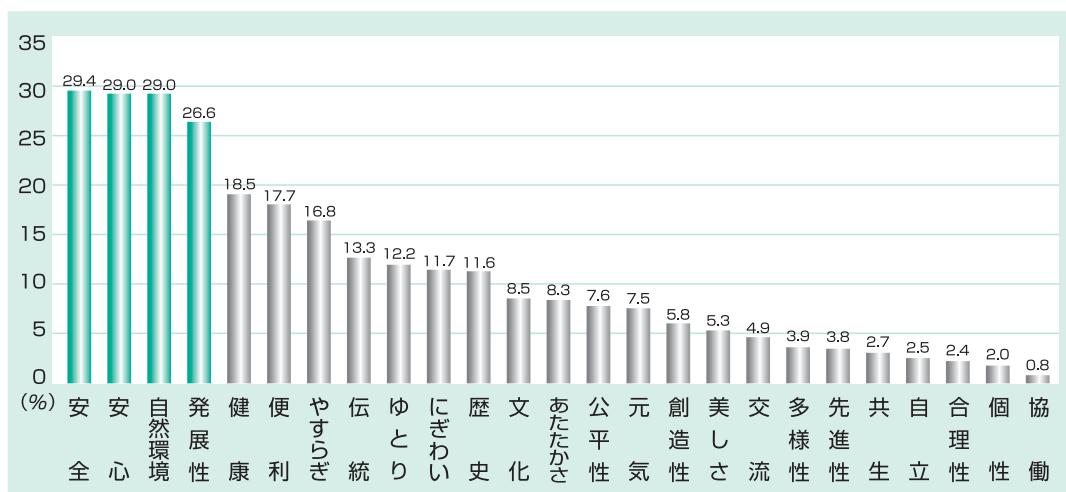
*「その他」の欄で掲げられている「人口の減少」は多くの市民から指摘がありました。すべての経済活動の主体は「人」であり、その減少は地域経済の衰退、ひいては地域の衰退につながると考えられます。人口の減少は地域にとって究極の課題です。

3 香取市のまちづくりへの期待

今後のまちづくりで大切にしたいキーワードとして、「安全」「安心」「自然環境」「発展性」という4つの意見が多く寄せられました。なかでも「安全」「安心」は犯罪や事故、災害が多発する昨今、全国的に求められているテーマであり、日常生活をおくる前提として、市民が強く望んでいる方向性であることがわかります。

「自然環境」は香取市の誇るべき財産であり、まちづくりにおいてその保全と活用が期待されていることがうかがわれます。また、「発展性」は人口減少や産業の低迷といった市の現状を打破したいという気概のあらわれだと考えられ、現状維持的なイメージもある「安全」「安心」だけでなく、前向きな姿勢も求められています。

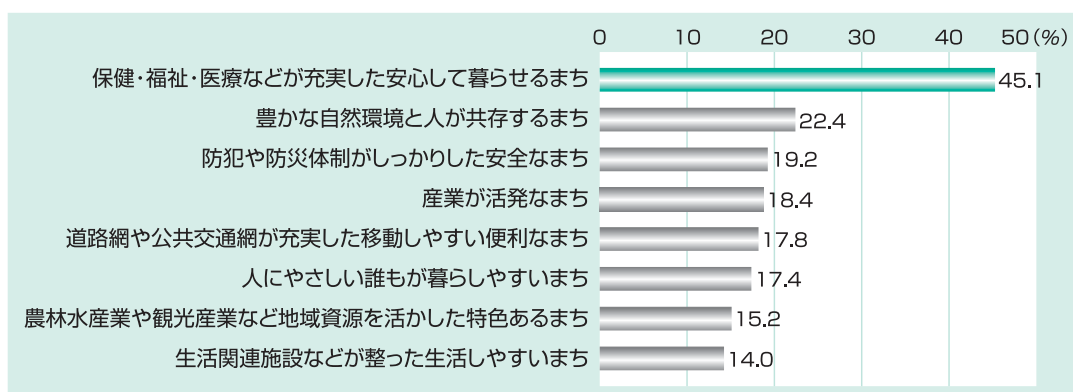
「今後のまちづくりで大切にしたいキーワードは？」



資料：市民意識調査結果

望ましいまちの姿としては、「保健・福祉・医療などが充実した安心して暮らせるまち」をあげる声が、他と比較して突出して多い結果となっています。今後の高齢化の進展、医療体制の未整備などといった現状を認識したうえで、保健・福祉・医療が充実したまちで、キーワードでもあげられたように「安心」して暮らしたい、と市民が強く望んでいることがわかります。

「香取市が将来どのような都市になることを望むか？」(主な項目のみ)



資料：市民意識調査結果